

令和4年度第4回 感染症発生動向調査部会

令和4年7月20日

月番：大西（進行）、大野

1 前月の感染症発生動向について（2022年第22週～26週・6月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は33例で、2019年の同期累計報告数183例、前年の同期累計報告数135例、本年の累計報告数が141例であり、新型コロナウイルス感染症流行後は岐阜県下においては発生が減少傾向である。従来通り基本的には高齢者が多いが、20歳台が6例、30歳台、40歳台の発生も1例ずつ報告されている。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が4例、うちO157が3例、その他が1例報告されている。
- ・ 四類感染症については、E型肝炎、A型肝炎が1例ずつ報告されている。レジオネラ症は12例報告されており、対2019年比で133.3%と増加している。
- ・ 五類感染症(性感染症以外)については、侵襲性肺炎球菌感染症が4例(1-4歳が2例、70-79歳が2例)が報告されたのみである。
- ・ 指定感染症として、新型コロナウイルス感染症が今月の報告数は14,177例となり流行は続いている。

<定点把握対象疾患>

- ・ RSウイルス感染症は県全体での発生数は483例であった。県全体の定点あたり患者報告数が9.1と全県的に流行しているが、特に岐阜地域では12.4、中濃地域は17.9となり、前月比246.1%と流行拡大が続いている。全国的にも流行がみられつつあるようであるが、岐阜県では発生が多い。
- ・ 咽頭結膜熱は58例の発生があり、前月比125.4%と夏の流行期に向けて増加傾向である。
- ・ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は36例の発生があり、前月比169.4%と増加傾向である。
- ・ 感染性胃腸炎は971例の発生があり、前月比102.3%とほぼ横ばいの状況である。前々年同期比95.6%、前年同期比200.6%と昨年よりはかなり発生が多くなっており、例年なみに近づいている。
- ・ 前年同期にはほとんど流行のみられなかった手足口病は今月12例みられ、前月比120%で少し発生がみられはじめている。
- ・ ヘルパンギーナの発生は2例と少なく、伝染性紅斑の発生は東濃で1例のみ報告されているが、依然ほぼゼロの状況が続いている。
- ・ 突発性発疹は67例の発生があり、前月比121.8%で増加傾向にあり、前年同期比124.1%、前々年同期比94.4%で、例年なみに近づいている。
- ・ 基幹定点疾患を含め、その他目立った調査対象感染症の流行はみられていない。

2 検討すべき課題

・RS ウイルスの流行について

シナジスによる予防の時期について提言できるかどうかは引き続き検討課題。

また、シナジス接種対象者への案内についてもどのように周知していくのかは課題である。

3 情報提供すべき事項

・栃木県内の10歳未満の女児が新型コロナウイルス感染による急性脳症で死亡した事例の報告があった。5歳未満の女児で急性脳症後に麻痺を残した事例の報告も挙がっており、小児例が急増している中注意が必要。

4 情報提供（月番委員専門分野から）

・特になし

<検討結果>